

番匠川水系流域治水プロジェクト【素案】

～流域における浸水被害の軽減に向けたハード・ソフト対策の推進～

○ 令和元年東日本台風では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、番匠川水系においても、事前防災対策を進める必要があることから、国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、現行河川整備計画の目標の平成17年9月洪水を安全に流し、それを上回る戦後最大の平成29年9月洪水でも堤防からの越水を回避し、流域における浸水被害の軽減を図る。

位置図



■河川における対策

国の対策内容 堤防耐震、河道掘削、堤防整備、堰改築、橋梁改築 等
※今後、関係機関と連携し、県管理区間の河川改修を追加予定

■流域における対策のイメージ

・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備
・既存ダムへの洪水調節機能の強化
・土地利用規制・誘導(災害危険区域等) 等
※今後、関係機関と連携し対策検討

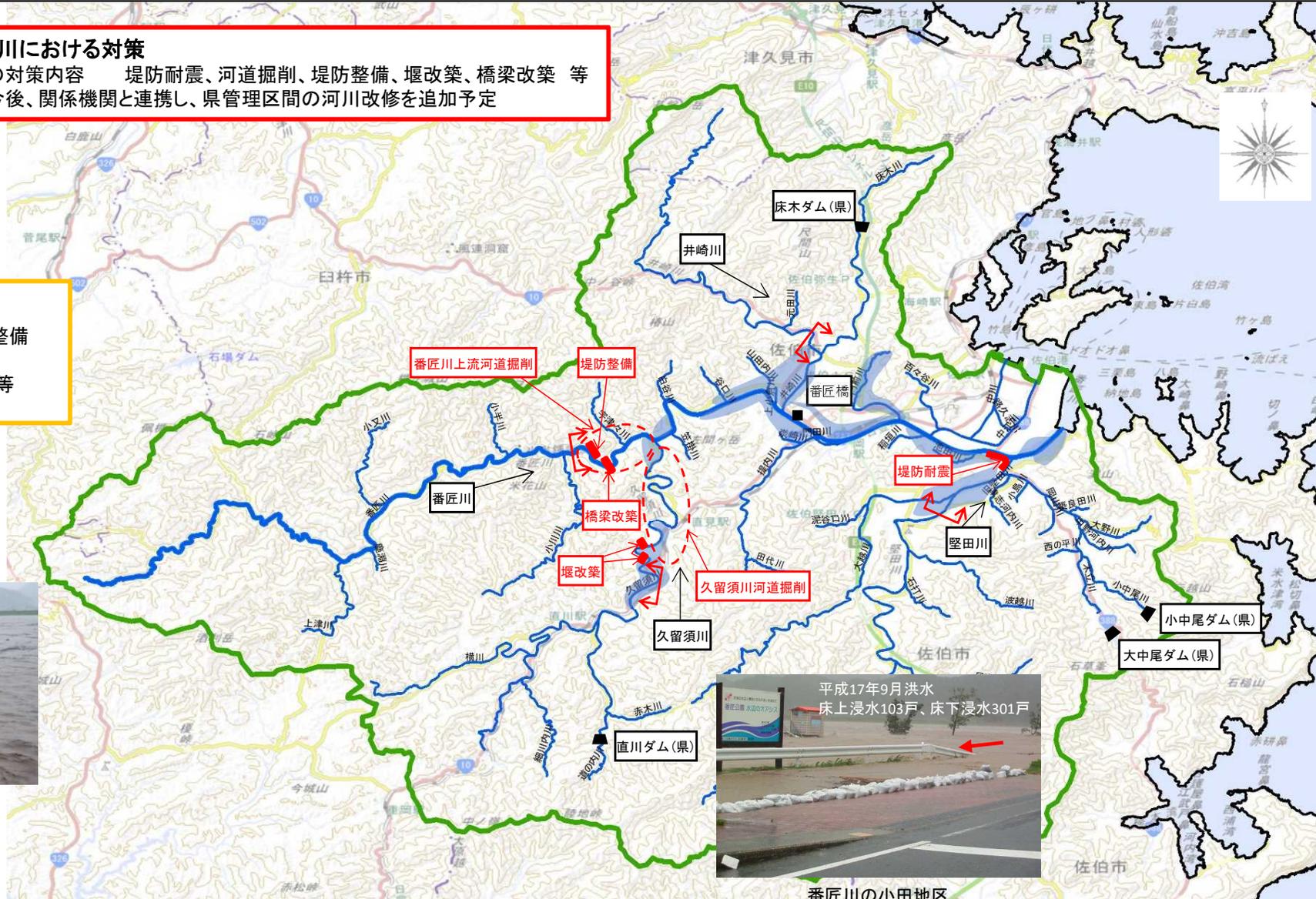
■ソフト対策のイメージ

・水位計・監視カメラの設置
・マイ・タイムラインの作成 等
※今後、関係機関と連携し対策検討



平成29年9月洪水
床上浸水100戸、床下浸水62戸
※大分県管理区間含む

番匠川の番匠橋地点



番匠川の小田地区

平成17年9月洪水
床上浸水103戸、床下浸水301戸

- 凡例
- 浸水範囲 (戦後最大のH29.9洪水実績)
 - 大臣管理区間

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。